

アラヤ、総額 5.5 億円の資金調達を実施

～「エッジ AI」「自律 AI」等、最先端の AI 技術の開発・提供を加速～

AI（人工知能）の技術開発・ソリューション提供を手掛ける株式会社アラヤ（所在地：東京都港区、代表取締役：金井 良太、以下 アラヤ）は、第三者割当増資により、総額約 5.5 億円の資金調達を実施したことをお知らせいたします。

なお、第三者割当増資は、グローバル・ブレイン株式会社が運営する「KDDI 新規事業育成 3 号投資事業有限責任組合」「MF-GB 投資事業有限責任組合」「グローバル・ブレイン 6 号投資事業有限責任組合」、および、三菱 UFJ キャピタル株式会社が運営する「三菱 UFJ キャピタル 6 号投資事業有限責任組合」を引受先としております。

■資金調達の目的

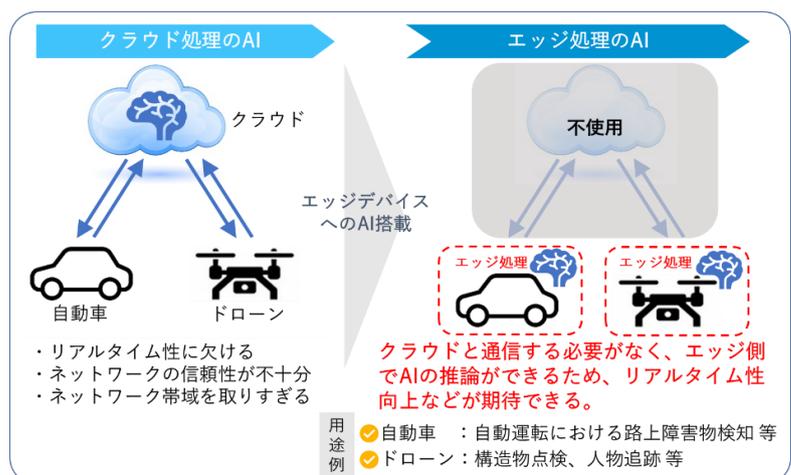
今回の資金調達の目的は、「ディープラーニング」や「エッジ AI」「自律 AI」等、最先端の AI 技術の開発強化、それらを活用したプロダクトの開発、および海外展開の推進となります。これらの事業拡大に向け、エンジニア・ビジネスディベロップメント等の採用強化を行います。

<社会性・背景>

人手不足や労働環境の改善策の一つとして、さまざまな分野で AI による自動化の導入が進められています。また、交通事故の減少や運転からの解放などの点から AI を活用した自動車の自動運転技術の進展に期待が寄せられています。こうした技術のニーズの高まりを受け、世界的な AI 技術の開発競争が続いています。

■アラヤにおけるエッジ AI 事業

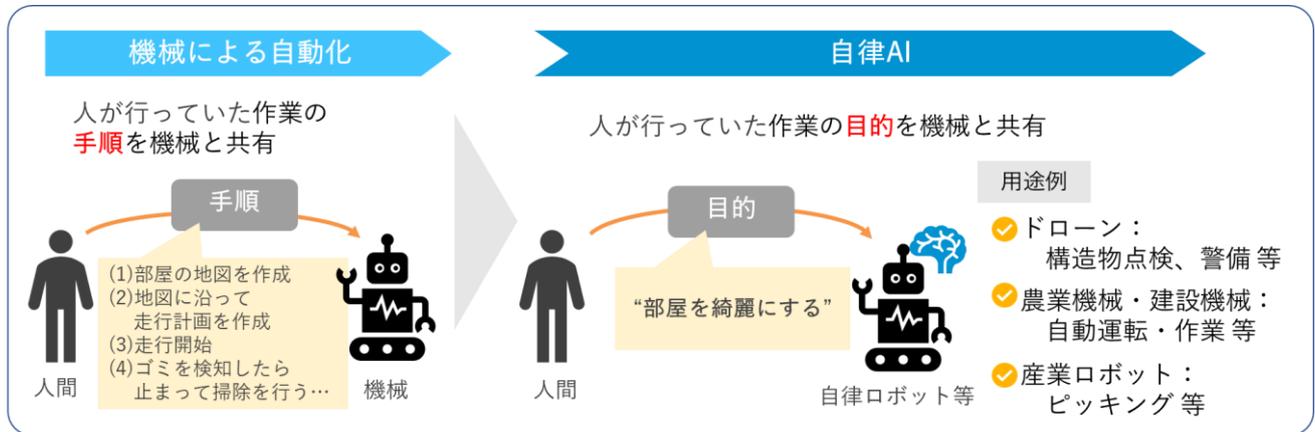
通常、AI を動かすには大きな計算リソースが必要になるため、多くの場合クラウド上で行われています。しかし、クラウド経由での通信は時間がかかり、また通信環境に左右されるため、例えば瞬時の判断が求められる自動車の自動運転などでは支障となります。そのため、自動車など現場のデバイス（エッジデバイス）上で AI を動かすことが求められています。ただ AI の演算量は膨大で、エッジデバイス上の小さなチップに載せることは困難です。



アラヤは独自の特許技術で、精度はほぼそのままに AI を 1/4～1/16 にまで圧縮・演算量を削減することができます。これにより、自動車・ドローン・スマートフォンなどで AI を動かすことが可能になります。また、AI の圧縮を自動化するアプリケーションの開発も進めています。

■アラヤの目指す自律 AI

現在の多くの AI では、人が行っていた作業の手順を機械に教える必要があります。アラヤでは、深層強化学習を活用し、人が教えなくても、ロボットやドローンなどが状況を自ら判断し与えられたタスクを遂行する（「自律的」に動く）ことができるような技術・プロダクトの開発を進めています。この技術と「エッジ AI」により、これまで作業の自動化が難しかった分野についても自動化を導入できることを目指しています。



本件に関するお問い合わせ先

株式会社アラヤ 広報担当：大江（オオエ）
<https://www.araya.org/>
support@araya.org